

神樂記

折口信夫

青空文庫

神楽と言ふ名は、近代では、神事に關した音樂舞踊の類を、漠然とさす語のやうに考へてゐる。さう言ふ広い用語例に當るものとして、神遊カミアソびと言ふ語があつたのである。一体日本古代の遊びとか舞ひとか言はれるものには、鎮魂の意義が含まれてゐる。「神遊」は、神聖な鎮魂舞踊とか、或は神自ら行ふ舞踊アソビとか言ふ意味らしいのである。其神遊びの一種として、平安朝の中頃から宮廷に行はれ始めたのが神楽で、最初は「琴歌神宴」と称して、大嘗祭の一部分の、夜の行事から出たと言ふ説が、有力になつてゐる。

通説には、天岩戸の神出現に先立つて、天錫女命の舞踊したのが起源だといふ事になつてゐるが、此は神楽よりも古い鎮魂祭の初めを説くものと思はれる。

恐らく宮廷以外の神社で発達したものが、天子を祝福する意味から、宮廷年中行事の一つに入りこんだものと思はれる。其にも順序があつて、最初に豊樂殿ブラックの清暑堂セイシヨダウに行はれたのが、後、内侍所にも行はれることになつたらしい。天子の御為にするのであつた事は、庭上で之を奏してゐる間、御座に出御になつてゐた事からも察せられる。

主要な樂器は琴で、之に笛・筆篥が伴つてゐる。歌は本方モトカタ・末方スエカタに分れて、所謂「掛け合ひ」の様式で謡ふのである。舞ひは、此神態カミワザの長ヲサと言ふ風に解せられてゐる人ニンヂヤ。

長^ウがするので、其も主として、初めの「採物」^{トリモノ}に行はれる。採物は、其一つ^一くが、此鎮魂呪術に用ゐる呪具だつたのだらう。其を携へて出て舞ふと、歌が之に伴ふ。之がすんで後、数回の勧^{ケン}盃^バがある。其間に古来のと今様のと、民謡に唐樂風の節をつけた、當時の歌謡曲の様なものが謡はれた。此が大前張^{オホサイバ}・小前張^{コサイバ}である。其後は「朝歌」とも言ふべき星の歌・星の呪文・朝倉などがあつて、昼夜^{ヒルメ}・其駒^{ソノコマ}などを含む雑歌でをさめることになつて居る。正式に之を行へば、宵から夜明けまで夜を徹したものだが、曲目も殲えて次第に其を本格的に行ふことが出来ず、時々の選択を加へて、抜きさしするやうになつたと見える。

神楽の主要部は、やはり採物にあるので、其後で、鎮魂を行つた慰勞として出る酒を頂く。謝意を表する為の芸廻しとも言ふべきものが、其々の才技で召された男たちによつて行はれ、其後なごり惜しみして別れて行く。其朝の部に属するものが分化して、「雜歌」^{ザフノウタ}を生じたと言ふことになるのであらう。今度催される「其駒」なども、雑歌のをさめに謡ふことになつてゐた。朝の神あげで還つて行かれる神に別れを惜しむやうな感情が、此部の歌には全体として現れてゐるのだが、朝は日神が來臨するのに、之になごり惜しみすることの矛盾を感じて、こゝで一しきり悲別とも讚歎ともつかぬ歌群が出来た訣である。

「さゝのくま ひのくま川に駒とめて（昼日）」と「其駒ぞや 我に草こふ」とを比べて見ても、同じ目的の分化したことは窺はれるのである。

神楽が宮廷に栄えて後、宮廷以外の地方の社で行ふものを、里神樂サトカグラ、夏の祓ハラへに關聯した舞踊を夏神楽、伊勢国の片田舎で発達したのが、神宮直属のものゝ様に僭称して、病気災厄の祓へをして廻つたのが、伊勢神楽と言ふやうに、神楽と言ふ称へが、圧倒的な勢力を、神事舞踊の上に持つて来るやうになるのである。

青空文庫情報

底本：「折口信夫全集 21」中央公論社

1996（平成8）年11月10日初版発行

底本の親本：「折口信夫全集 第十七卷」中央公論社

1967（昭和42）年3月25日発行

初出：「実演による日本舞踊史の展望 プログラム」

1949（昭和24）年7月発行

※底本の題名の下に書かれている「昭和二十四年七月 「実演による日本舞踊史の展望プログラム」」はファイル末の「初出」欄に移しました。

入力：門田裕志

校正：フクボ一

2018年4月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作成

れました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆さんです。

神楽記

折口信夫

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>